もキジアは予想どおり九州に上陸し，これを縦断して日本海に抜けた．

「大阪管区気象台長大谷東平が申し上げます．大阪は最悪の事態になります．」

これは第2室戸台風と戦った先生の言葉である．昭和36年9月16日午前9時30分大阪府に対する暴風雨・高潮警報発表とまったく同時に先生の命により私が代行して，この言葉を，大阪府知事，大阪市長，大阪府警察本部長，NHK 中央放送局長あてに電話で緊急連絡をしたのである．前日から近畿地方に来襲する公算の大なることを台風情報で流し，当日の午前7時には大阪府に対し暴風雨警報・高潮注意報を出し，そして，午前9時30分に暴風雨・高潮警報と次第に大阪直撃の公算の大きいことを知らせたのであるが，最後に先生は大きな自信をもって防災機関の最高責任者に直接はっきりした警告を出されたのである．

この先生の警告は，昭和52年発行された日本放送協会編「放送50年史」の中で次のように生きている．午前9時30分，大阪管区気象台は台長大谷東平の名で知事，市長，大阪府警察本部長，NHK 中央放送局と地元の民放新聞に対し「最悪の事態となった」ので厳重な警戒と予防態勢をとるよう要望した．

（日本気象協会中央本部）

山崎　道夫編

佐賀の天気

佐賀新聞社発行1977，B6版，172頁，980円．

本書は，佐賀地方の気象の特徴を季節の順にわかりやすく解説したものである．著者グループは，地域防災の第一線にある佐賀地方気象台の，山崎道夫（前台長），服部徳一（前技術課長），倉田健男（防災業務課長），糸山真一（予報官），吉村寿一（防災業務課調査官）および井上辰雄（防災気象官）の諸氏から成っている．県民の方々にふだんから気象に親しみ，郷土の気象の特徴を理解してもらいたいとの意向のもとに，著者らが佐賀新聞に1年間連載したものをまとめたのがこの本となった．このようないきさつからもわかるように，本書のねらいは，県民の気象に対する関心と理解を高め，ひいては地域防災活動の向上に資するという点にある．

内容は，春・夏・秋・冬の季節にしたがって身近かに起こる事象を題材にして生活と気象とのかかわり合いを説明しながら，豊富な経験と適切な事例，および図や表を用いて天気の特徴や地域の気象特性を理解させるよう努めている．とくに，集中豪雨・台風・高潮・干ばつなど災害をもたらす現象については，その態様やメカニズムにも触れてある．

また，内容は，単に県内の気象特性だけにとどまらず，米作，海難，漁業など農林水産業と気象の関係にも及び，さらに，地域（農業）に合った気象の利用の仕方にもふれている．

さきにも述べたように，本書は県民一般を対象にしているため，高度な専門的な叙述はなされていない．むしろ，平易にわかりやすく，ときには俳句など引用して親しみやすく，各節の題材は独立していてどこからでも読み出せるという気楽さがある．しかも，その内容は，あくまでもしっかりした観測統計値や過去の災害経験および，豊かな防災知識に裏打ちされたものであるという点に本書の特色があるように思う．このことは，巻末に気象資料として，佐賀・県内各地の気象表，極値表，風水害年表，季節ごよみや毎日の天気の出現率（佐賀）などを付して利用者の便を図ってあることからも行き届いた心くばりが察せられる．

本書のように，地域に密着した一般への啓蒙書が出たことは喜ばしい．これを防災気象のいわば教養書として，今後さらに専門的な解説書が続くことを期待したい．「佐賀の天気」は，ただ単に佐賀県だけでなく，広く他の地方の方々にもいろいろな意味で役に立つであろう．また，現代社会が持っている防災気象上の問題点を示唆する意味で気象専門の人にも益するところが多いと思う．

（植村八郎）